

「pXP0 株を利用して生産されたペプチダーゼ」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 平成26年3月25日～平成26年4月23日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1通
4. 意見・情報の概要及び食品安全委員会の回答

意見・情報の概要※	食品安全委員会の回答
<p>自然に遺伝子交換が行われたことで新しく作ったPXP0株と同等の遺伝子構成を持つ生細胞が自然に存在すると決定することはおかしい。実際に同じ遺伝子構成の生細胞が確認できればよいが、そうでないならあらゆる部分の遺伝子交換が簡単に自然界でできないはずで、確率の低い交換もあるだろう。ゆえに当面はバイオセーフティレベル1での生産が妥当だと思う。安全性の確認も必要。</p>	<p>評価書案にも記載しているとおり、今般のpXP0株に用いられた <i>Streptomyces</i> 属菌である <i>Streptomyces violaceoruber</i>, <i>Streptomyces cinnamoneus</i> 及び <i>Streptomyces azureus</i> の間で、自然に遺伝子交換が行われていることが科学的知見から確認されています。実際にpXP0株が自然界に存在していることの確認は行うことができませんが、これまでの知見から、同等の遺伝子構成を持つ生細胞が自然界に存在すると考えることは妥当であると考えられます。</p> <p>なお、<i>S. violaceoruber</i>, <i>S. cinnamoneus</i> 及び <i>S. azureus</i> は、いずれも国立感染症研究所病原体等安全管理規程において、バイオセーフティレベル1に該当します。</p> <p>また、遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価にあたっては、ヒトの健康に及ぼす影響の内容及び程度が明らかでないと判断された場合には、必要に応じて、その影響を評価することとしており、本品目は上述の知見も踏まえてその必要がないものと判断されたものです。</p>

※頂いた意見・情報をそのまま掲載しています。